



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 五十嵐 武
 〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL 03-3784-8000
 ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>

巻頭言 年の終わりに

顎口腔疾患制御外科学教室 倉地 洋一

今年も残りわずかとなり、2005年を振り返りかえる時期となりました。学部教育においては「社会と歯科医療コース」の新設、「問題発見解決型教育」の導入を柱とした新カリキュラムが3年目をむかえ、5年生の臨床実習は共同診察室を中心とした新しい実習体制開始の年でした。これらの体制の評価は2年後となりますが、現在の問題点を再検討するとともに、2006年から始まる「卒後教育の義務化」、「共用試験の本格実施」、「選択実習の導入」に備える必要があります。



診療面では診療科の新設、診療体制の整備が行われて2年目に入り、これら新しい診療体制の再評価を行うと共に、昭和大学「至誠一貫」の理念に基づいた歯科病院の理念、基本目標を実践する必要があります。その最初に、「患者さんの立場にたった医療の実践」という目標があります。私自身、この一年間患者さんを治療してきて、いかに難しいものであるかを痛感しております。口腔癌の患者さんを担当したときのことで、一生懸命治療を行い、悩みをきき、お話しをしてお互いに理解したつもりでございましたが、ある時「本当の癌患者の気持ちは癌の患者さんにしかわからない」と言われてしまいました。本当にショックでした。

以前、医という字は醫とかいていました。いくつかの解釈がありますが、医は弓を引くということで「技術」を表し、爿は役の一部で「奉仕」を示し、酉は神に酒を奉ることで「祈り」や「癒し」を示しているともいわれています。諏訪中央病院の鎌田實先生は、醫から医に字が変わって、医療は本来もっていた「技術」と「奉仕」と「祈り」の三位一体を忘れ去り、技術に走っていったのではないかと述べています。昭和大学歯学部においても、知識や技術習得の教育だけではなく、患者のこころを思いやり、痛みのわかる歯科医師になる教育が重要となります。私自身が来年度の目標に6項目の目標、特に「患者さんの痛みのわかる歯科医師」を掲げて努力しようと考えております。

第25回昭和歯学会例会

昭和歯学会常任理事(庶務) 中村 雅典

12月3日(土)に歯科病院6階第一臨床講堂で第25回昭和歯学会例会が開催されました。一般演題26題に加え、佐々龍二教授と南雲正男教授による退職記念講演、ならびに国立長寿医療センター研究所口腔疾患研究部部長松下健二先生による特別講演がありました。また、今年度の上條奨学賞授与式が行われ、研究業績で口腔衛生学教室の向井美恵教授、研究補助で顎口腔疾患制御外科学教室の岩瀬正泰講師が受賞され、細山田学長から賞状と記念品が授与されました。両先生の一層の研究の発展を祈念いたします。松下先生の特別講演は「歯科歯学・歯科医療の現状と今後の発展 未来歯科学の創生に向けて」という演題で、オーダーメイドの歯科医療の確立に向けてこれからの歯科医学の目指す方向性について貴重なご提案をされました。

本年度でご退職される佐々教授は「明日は明日と言いながら歩んだ小児歯科 変遷と将来展望」、また南雲教授は「口腔外科における基礎研究 臨床に寄与できるか」というご演題でこれまでの両先生の歩んでこられた道をお話しいただきました。両先生の講演には、これまでのお二人の学内外における多大な業績ならびにお人柄により学内外から数多く先生方がお集まりになり、熱心にご講演に耳を傾けていました。ご退職後も両先生の益々のご発展を心から祈念いたします。



診療統計		医事課 長谷 孝義		
	患者数	1日平均	前月 1日平均	前年 1日平均
外来患者	16,728	796.6	747.6	781.8
入院患者	391	13.0	10.8	16.8

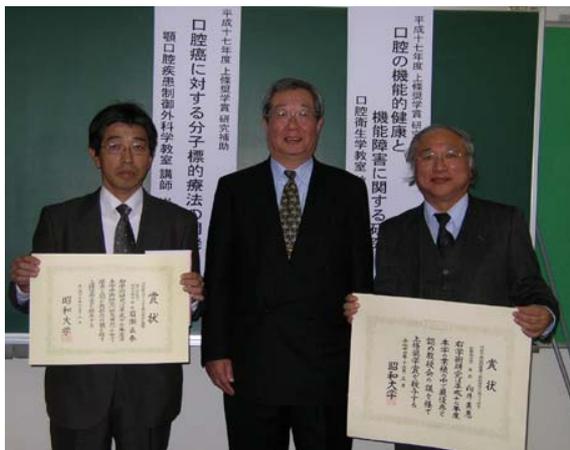
平成17年11月分

上條奨学賞(研究業績)を受賞して

口腔衛生学教室 向井 美恵

12月3日の昭和歯学会例会で学長先生から「上條奨学賞」を授与されました。これまでの研究が認められたものと素直に喜んでおります。しかし、研究は一人ではできません。共同研究者や研究スタッフ、研究資金、そして特に「人」を対照とした研究では研究に同意していただける研究ボランティアさんが不可欠となります。私はこうした研究環境に今日まで大変に恵まれていました。研究に適当な研究環境は、私の場合では学内の医・薬学部との研究協力や共同研究などが可能であった昭和大学だからこそ得ることができました。それに加えて多くの教室員や研究生に恵まれて研究を遂行することができました。素直に喜べるのもきっとこのような背景で「上條奨学賞」がいただけたからと思っています。

「食べる」「話す」「表情を作る」この意識されることも少ない毎日繰り返される日常の生活機能に対して、疾病を予防して健康で豊かな毎日が過ごせるように、医療・保健領域での研究を継続してまいりたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。



上條奨学賞(研究補助)を受賞して

顎口腔疾患制御外科学教室 岩瀬 正泰

「口腔癌に対する分子標的療法の開発」

最近、癌の増殖・浸潤および転移の機序に基づき、分子レベルで特異的に癌細胞に作用する分子標的療法が開発され、興味ある成績が報告されています。私は、上皮増殖因子レセプター(EGFR)の抗体(C225)、チロシンキナーゼ阻害剤(AG1478)および細胞の生存シグナル系であるPI3K/Aktの活性阻害剤(wortmannin, LY294002)が扁平上皮癌細胞にc-FLIPの発現抑制を介して抗Fas抗体およびTRAIL



などのデスレセプター誘導アポトーシスを亢進させることを明らかにしました。更に、扁平上皮癌細胞はPI3K阻害剤やEGFR阻害剤の前処理により、口腔癌の化学療法剤として汎用されているCCDPや5FUの細胞傷害性が亢進されたことも報告しました。これらの研究成果は、分子標的治療薬として有望なEGFR阻害剤やPI3K阻害剤とデスレセプターや抗癌剤との併用療法による抗腫瘍効果への有用性を示唆しています。今後は、これらの実験系をex vivoの系に応用し、抗腫瘍効果について検討したいと考えております。

本研究は、南雲教授をはじめとする教室員の御指導と御助力によるものであり、ここに深謝致します。

長谷川名誉教授が平成17年度日本歯科医学会会長賞授賞

歯学部 長 宮崎 隆

本学名誉教授の長谷川紘司先生が、歯科界で最高の顕彰である平成17年度の日本歯科医学会会長賞をめでたく授賞されました。去る平成17年12月16日に新歯科医師会館にて授賞式が執り行われ、齋藤毅会長から顕彰状と副賞が贈呈されました。当日は歯科医学会の評議員会が開催されたので、本学から久光教授、岡野教授、向井教授と私が表彰式に参列することができました。

今回の授賞は、日本歯科医学会会長賞受賞基準第3条二号の「歯科医学教育に30年以上従事し、その向上に著しい功績があったと認められる者」の対象でした。長谷川教授は先日開催された日中歯科医学大会では、日本側を代表して特別講演をされましたし、相変わらず多方面でご活躍中です。

昨年は道健一名誉教授が同賞を受賞されており、本学にとっては昨年に引き続き大変に名誉なことで、皆で祝福したいと思います。



行事予定

広報委員長 五十嵐 武

- 1月4日(水): 仕事始め
- 1月7日(水): 歯科病院臨床研修医選考試験 (追加募集)
- 1月21, 22日(土, 日): 大学入試センター試験
- 1月24, 25日(火, 水): 歯学部4年CBT試験
- 1月28日(土): 選抜 期・センター試験併用入試
- 2月11, 12日(土, 日): 歯科医師国家試験

歯科病院職員の人命救助

歯科病院 事務長 外川 譲

平成17年11月25日(金)午後12時55分頃歯科病院前バス停付近において心停止状態である高齢女性を歯科病院職員、歯科学士の連携により心マッサージ、人工呼吸を施し、さらにAED(自動体外式徐細動器)を使用し徐細動を行ったところ自発呼吸が見られました。これは都内でのAED使用による初めての人命救助であり、12月5日歯科病院にて消防総監感謝状が田園調布消防署長より贈呈されました。

表彰者は、(口腔外科)山崎 善純、磯邊 友秀、(歯科麻酔科)岡 秀一郎、藤原 広、(高齢者歯科)河野 真紀子、(歯学部6年)三浦 昭子の6名です。



日本歯科保存学会50周年記念大会報告

齶蝕歯内治療学教室 鈴木 敏光

第123回学術大会・第7回日韓歯科保存学会学術大会は日本歯科保存学会50周年の記念大会であり、う蝕・歯内治療学講座 久光久大会長のもと、



東京国際フォーラムにおいて11月23日から3日間の会期で開催されました。大会初日には諏訪中央病院の鎌田 實先生、永 六輔氏、ピーコ氏、小室 等氏、坂田 明氏らが中心となって「“がんばらない”けど“あきらめない” 命、人生、歯、音楽を考える」というタイトルでオープンフォーラムが開催されました。会場を埋め尽くす1500名ほどの一般参加があり、大いに盛り上がりました。また、フォーラム終了後には日本歯科保存学会50周年記念式典および記念祝賀会が執り行われました。

大会2日、3日目は通常の学術大会が開催されましたが、今回は50周年記念ということで「日本歯科保存学会への期待と提言」というテーマでシンポジウムが行われました。モデレーターは日本歯科保存学会

理事長の恵比須繁之教授が行い、パネラーとして日本補綴歯科学会理事長の赤川安正教授、日本口腔衛生学会理事長の中垣晴男教授、日本歯科理工学会会長の小田 豊教授、日本矯正歯科学会会長の相馬邦道教授、日本小児歯科学会副理事長の前田隆秀教授、韓国歯科保存学会会長の Ho-Hyun Son 教授をお招きして3時間にわたって行われました。その他に特別講演が2題、パーミンガム大学の Smith AJ 教授による「A New Era of Restorative Dentistry」およびジョージア医科大学の Haywood VB 教授による「Nightguard Vital Bleaching Indications and Limitations」、一般口演が56題、ポスター発表が国内144題、そして今回は日韓合同学術大会ということで韓国からのポスター発表も15題行われました。

また、ポスターと同じ会場では70ブースもの企業展示も行われました。認定研修会も開催され、予防の重要性を早くから提唱されて地域医療に携わってこられた山形県酒田市開業(日吉歯科診療所)の熊谷 崇先生により「歯科医療における真のエンドポイント」というタイトルで講演が行われました。韓国や中国の先生も含め、これまでで最大の約1300名もの先生方が参加する盛況な学術大会となりました。

接遇セミナー

副病院長 佐藤 裕二

11月30日(水) 歯科病院第一臨床講堂において、ANA ラーニングの北敏枝氏を講師としてお迎えして「心を伝える接遇」と題した研修会が行われました。夕刻、仕事が終わってからという時間にもかかわらず100名以上の受講者の熱気あふれる会となりました。



講義では、単に偽物のテクニックだけではなく、からだに染みこんだ心のもった「もてなし」の重要性を、身近なエピソードも交えてわかりやすくお話いただけました。具体的なポイントとして、「SMILE:笑顔」「SMART:信頼を与える表現」「SPEEDY:お待たせする場合の心遣い」「SINCERITY:相手の心の声を聞く」「STUDY:自己啓発」「SPECIALITY:仕事を楽しむ」の6つの「S」について挙げられました。私にとって、目頭が熱くなるようなすばらしい講演でした。

最後に、「小さいことほど丁寧に、当たり前なことほど真剣に」という言葉で結ばれました。明日から、歯科病院がより明るく、生き生きとしたものになることを予感させる1時間半の講演でした。参加できなかった方々にも、ぜひもう一度機会を作っていただければと思います。

歯学部創設30周年

齶蝕歯内治療学教室 久光 久

昭和52年に創設された昭和大学歯学部は来年、平成18年に30周年を迎えます。この栄えある30周年を祝うため、昭和大学歯学部では30周年記念事業を企画することとなり、その準備のため、歯学部教授会の承認を得て宮崎歯学部長を30周年記念委員長、立川、久光を記念実行委員長とする実行委員会を発足させ、11月30日に第1回の実行委員会を開催しました。実行委員会で協議、検討した結果、今後変更する可能性はありますが、昭和大学歯学部創設30周年記念事業(案)は以下のように行うことが決まりました。

[記念講演会]

日時:平成18年11月4日(土)、10時

場所:上條講堂

講演テーマ(案)

特別講演:昭和大学歯学部30年の歴史

シンポジウム:最先端歯科医学の現状と未来

講座研究・臨床紹介:研究・臨床の現在と未来

[記念祝賀会]

日時:平成18年11月4日、18時

場所:ホテルオークラ別館B2 アスコットホール

参加人数:約300名

[記念誌]

昭和歯学会雑誌の特別号として発刊する。

今後、講演委員会は中村教授、祝賀委員会と会計委員会は上條教授、記念誌委員会は井上教授を中心に準備を進めてまいります。皆さんと一緒に祝いできる会にしたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

平成17年度歯科医師臨床研修指導歯科医全身管理講習会

歯科麻酔科 藤原 広

10月21、22日に平成17年度臨床研修指導歯科医全身管理講習会が本学歯科病院にて開催されました。

本講習会は臨床研修の必修化に伴い指導医が全身の評価についての理解を深め、また全身管理に関する基本的技能を習熟することを目的として歯科医師臨床研修指導財団が開催しているものです。

当日は全国の大学、施設より指導医40名が参加し本学からは高齢者歯科の下平先生が参加されました。吉村 節教授らの講演の後、救急蘇生、静脈路確保、モニター機器の取り扱いといった実習が行われました。

実習ではモニター機器は卒業以来ほとんど触っていないという先生から日常的に使用されているという先生まで来年度の必修化を前に皆一様に熱心に実

習に参加されていました。点滴確保実習は希望者のみによる相互実習であったにもかかわらず、半分以上の参加者が希望されました。実習終了後、中原理事長から受講者全員に修了証書が授与されました。

なお開催初日は金曜日で診療や講義が行われていたにも関わらず、関係各位の多大なご協力により円滑に運営することが出来ました。この場を借りてお礼申し上げます。



臨床研修医マッチング結果発表

総合診療歯科 長谷川 篤司

臨床研修必修化に伴って導入された臨床研修医と臨床研修プログラムとのマッチング結果が平成17年12月15日、14時に歯科医師臨床研修マッチング協議会から発表されました。全国ではマッチングを希望した3584名中、93.9%にあたる3367名がマッチしました。歯科医師臨床研修マッチング協議会の広報資料 <http://www.d-reisjp.org/renraku1215.html> にマッチングの結果と各研修施設の空席状況の詳細が報告されており閲覧可能となっています。

マッチング発表後、昭和大学卒業生117名(新卒者96名、既卒者21名)に対して動向をアンケート調査したところ、マッチ者80名(新卒者79名、既卒者1名)、アンマッチ者26名(新卒者12名、既卒者14名)が確認され、アンケート未提出11名(新卒者5名、既卒者6名)については不明という結果を得ました。

昭和大学歯科病院では募集定員110名に対し、71名(昭和大学卒業60名、他大学卒業11名)のマッチが決定しました。歯科病院では同日中に欠員に対する若干名の追加募集を発表し、1月7日(土)に選考試験を実施することとなりました。アンマッチ者は、マッチング参加の研修施設だけでなく、マッチング不参加の研修施設の追加募集にも応募可能となります。

編集後記

広報委員(口腔解剖学教室) 野中 直子

2005年も残すところ数日となりました。1年が過ぎるのがとても早く感じます。12月のお忙しい時期に、原稿執筆を快く受けてくださった先生方に深く感謝いたします。「1年の計は元旦にあり」とは、昔からの言い古された言葉ですが、今まで何度も計画だけを立てながら、年末になってあまり実行されていないことに気付くのは私だけではないと思います。

昭和大学そして皆様にとりまして2006年がよい年となりますことを心からお祈りしております。